

ヒメボクトウふ化幼虫の りんご樹体への食入防止法

りんご研究所

りんごやなしの枝幹を加害する害虫である、ヒメボクトウによる被害を減らすための方法の一つとして、ジアミド剤（「フェニックスフロアブル」4,000倍、及び「サムコルフロアブル10」5,000倍）散布によるふ化幼虫の食入防止法を検討したところ、高い効果があることが明らかになったので紹介します。

ヒメボクトウの被害

成虫は粗皮の下などに卵塊を産みつけ、そこからふ化した幼虫が樹幹内部に食入する。

幼虫は主幹、主枝、垂主枝などに食入、集団で内部を加害する。



枝幹内部を加害する幼虫



被害部からの木屑の排出

被害を受けた枝は衰弱し、やがて枯死

食入防止のための ジアミド剤の散布時期

成虫は
7月中旬～
8月上旬に
発生

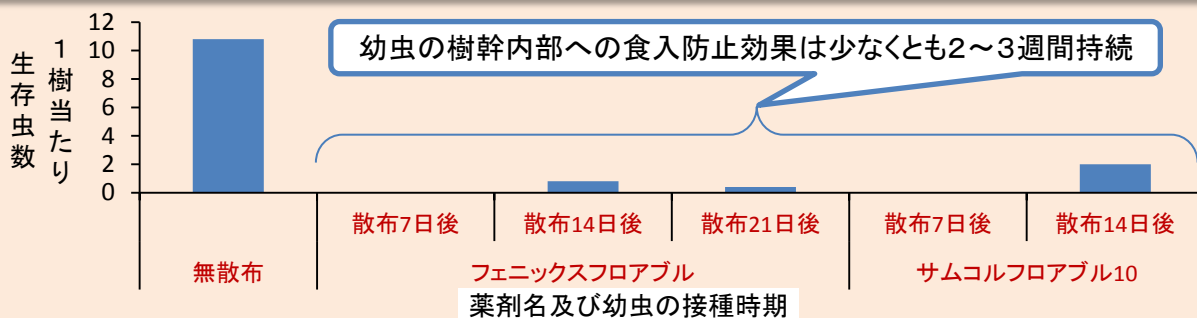


成虫

フェロモントラップによる雄成虫の誘引初発日、終息日

調査年	総誘引数	誘引初発日	誘引終息日
2007年	21	7月12日	8月6日
2012年	27	7月16日	8月4日
2013年	22	7月18日	8月16日
2014年	29	7月8日	8月2日
2015年	5	7月14日	8月3日

成虫の誘引初期で、幼虫が樹幹に食入する前の「7月半ば」の時期にジアミド剤を散布



ジアミド剤散布によるヒメボクトウ幼虫の食入防止効果

供試薬剤を散布して7～21日経過後、ヒメボクトウ幼虫を1樹当たり20個体接種（1区5樹供試）。接種30日後に樹を解体して、生存幼虫の数を数えた。

注意 点



この方法は、ふ化幼虫の食入を予防する方法です。
（すでに樹幹内部に食入した幼虫を駆除する技術ではありません）

お問い合わせ

りんご研究所 病虫部 (Tel.0172-52-2331)